

《大学生の部》

【前田純孝賞】

映画館出てそれぞれになる我ら共有された世界を抜けて

東京大学 三年 南出 玲生

【選評】

映画を観終え現実へと歩み出す。誰もが経験したことのあるこの場面に、作者は鋭い視線を向けています。映画を共有することで一時的に成立したつながりと、個別の存在の交錯を、驚くほど簡潔な言葉で、余韻を残しつつ描き切っています。前田純孝が、明治という時代の転換期にあつて「社会」と「自己」の間に立ち、その深奥を歌に刻み込んだように、この一首にもまた、「共に在ること」と「ひとりに還ること」との切実な真理が息づいています。現代に生きる私たちの孤独と連帯の在り方を問い返す作品として、高く評価しました。

【選者 佐佐木 頼綱】

【準前田純孝賞】

観覧車てっぺんにいて約束は未来のかたちだけでないこと

京都大学 四年 朝香 瑞希

Tシャツの日焼けあとが消えぬままわたしのなかの夏が居残る

東京理科大学 四年 堀田 皐月

【選者賞】

母のみぞ知るクソガキの我がありひとりの夜にしのび泣きけり

跡見学園女子大学 四年 井上 凜

故郷に帰れば駅のガチャガチャも年老いている楓のさなか

早稲田大学 四年 河崎 遼也

ひまわりが太陽見ているうるさいなこの苦しみが分かったたまるか

東京理科大学 二年 大石 櫻子

【新温泉町長賞】

浮気しちゃダメらしいけど僕だけの本屋があってもよそで買いたい

京都大学大学院 二年 高橋 元総

あめ玉を噛まずにとかしているようにゆっくり君を振らないでいる

横浜市立大学 三年 高橋 愛花

祖母がいた縁側にまだ椅子ひとつ誰も座らず季節がすぎる

明治大学 二年 山野 絵梨香

山あいの道ひっそりと紅葉踏む私の創る音だけ残る

東京理科大学 四年 蛭田 宗

四時半を指し続ける時計台は直され正しくなってしまった

東京大学 二年 梅田 依菜

【新温泉町教育長賞】

さわやかな新しい靴一步目で昨日と違う朝のひとつとき

頌栄短期大学 二年 小椋 ほのか

電線に止まる鳥が描くのは連符だらけのア・ピアチェーレか

頌栄短期大学 二年 高木 美玖

ただ一人電車に揺られる帰り道窓の景色がゆっくり流れる

頌栄短期大学 二年 村田 蒼空

朝8時冷たい風が顔覆うみんなの鼻が赤く染まってる

大阪国際大学 一年 垣花 もも

忘れにしひとの形見の袖の香の匂ひ立ちたり夏のならひに

早稲田大学 二年 石谷 流花

【神戸新聞社賞】

中指にできたペンだこ潰したら条文のインク滲み出そうだ

早稲田大学

四年

高岡 大祐

真綿へと沈みゆく夜名を呼べば「ん」としとやかに返ってくることに

弘前大学

三年

畠山 来夢

水鉄砲構え駆け出すおとうとよ撃たれぬ今日をどこまでも往け

金沢大学

三年

渡邊 美愛

折り鶴を六十羽折ったことがあるピペット押して培養をする

森ノ宮医療大学

一年

太田 葵

宮城生まれ「あの日」はきみの誕生日「鎮魂の日」をハートが包む

一橋大学大学院

二年

山内 裕太

【佳作】

夜の雨ノートの隅ににじむ文字夢のかけらを書きとめておく

大阪国際大学

一年

郭 翰林

舞台裏響くブザー音息整え雛壇登り指揮者見る

大阪国際大学

一年

羽室 朋香

友達に貸した3万戻らない準備はできた縁切る覚悟

大阪国際大学

一年

姜 焱 斌

掻き鳴らすギターの音と君の声死にたい夜を救い出すもの

大阪国際大学

二年

西村 隼吾士

影ふたつのびて重なる夕まぐれふれずにいても重なる体温

頌栄短期大学

二年

岩村 晴香

木々たちがキラキラ輝る夜の街冬の始まりあともう少し

頌栄短期大学

二年

榎本 結衣

幼き日私があげたおこづかい今頃見つかる亡き祖父の部屋

頌栄短期大学

二年

森 あんじ

秋終わり分厚い布団出してくるぬくもりのなか冬を迎える

頌栄短期大学

専攻科

二年

岡本 桃圭

動かざる池のほとりにただ一羽風をまとうはアオサギの影

頌栄短期大学

専攻科

二年

加治屋 沙昌

夕暮れのチャイムが胸打つたびに大人になるの少し怖くなる

頌栄短期大学 専攻科 二年 仁科 時季美

ぎゅうぎゅうのペンや定規の筆箱が今はからから鳴るペンケース

東京理科大学 三年 鬼塚 天晴

イヤホンを片耳ずつに分けながら新宿御苑桜が散るよ

東京理科大学 四年 加藤 大昌

秒針の音だけ響く自習室ここでは誰も歳をとらない

早稲田大学 四年 高岡 大祐

空へ手を伸ばす銀杏のまぶしさはいつか散るって知らないからだ

早稲田大学 二年 松田 理穂子

秋風に「すき」をぶつけて前髪に隠れた君はふりかえらず

専修大学 四年 小松 来夢

君の手に触れて鼓動が速まって自分に嘘がつけなくなつて

和歌山大学 四年 出口 莉子

ヴァイオリン故郷を想いて夢弾けば辛きを癒す子守歌に似て

ライス大学 一年 石川 青

「好きかも」に猫のスタンプ返されて太宰のように見あげる雪よ

大阪芸術大学

三年

鍵井 瑠詩

走りだす景色が私の心拍かホームに消えたあなたの影か

日本大学

三年

宿澤 ありさ

半年と住まぬ我が家に帰り来て落ち着くことに落ち着かぬなり

東京大学

二年

佐藤 泰成